

【パールボウルレポート】

4年ぶりのパールボウル制覇はならず

第33回パールボウル

vs.鹿島ディアーズ 6月19日(金) 東京ドーム

オービック17-20 鹿島

逆転負けを喫し4年ぶりの優勝逃す

4年ぶり6回目の進出となったパールボウル決勝戦は鹿島ディアーズと対戦となりました。試合序盤は両チームのディフェンスが奮闘し、無得点のまま。第2クォーター、RB#20古谷拓也、#36白木のランを中心にゴール前まで前進しK#1金親のFGで3-0と先制します。その後、主将LB#2古庄のインターセプトでチャンスを掴むと、WR#83清水が33ヤードを一気

に走ってTD、10-0とリードを広げます。しかし直後のキックオフで93ヤードのリターンTDを喫し、10-7で前半を終了。後半、FGで10-10の同点に追いつかれますが、第4クォーター、LB#2古庄が強烈なQBサックを浴びせ、相手がファンブルしたボールを自ら持って50ヤード走りTD。17-10と再びリードします。しかしオフェンスが自陣のエンドゾーンでタック

ルされるセーフティで2点を献上。直後に鹿島にランでTDを奪われ、2ポイントコンバージョンも決められて17-20と逆転されます。試合終了間際、QB#15龍村が次々とパスを決めてゴール前まで前進。K#1金親が同点のFGを狙いましたが、惜しくも失敗。17-20でゲームセットとなりました。

(MVPの選出はありません。)



DL#94 島の強烈なQBサック



TDを決めたWR#83清水のランアフターキャッチ



LB#2古庄のQBサック&ファンブルリカバーTD

パールボウルトーナメント準決勝

vs.富士通フロンティアーズ 5月30日(土) 川崎球場

オービック20-17 富士通

ディフェンスが大奮闘、逆転でパールボウル決勝進出

パールボウルトーナメント準決勝は富士通フロンティアーズと対戦しました。ゲーム序盤、ファンブルからターンオーバーを喫し、富士通にFGを決められる波乱の幕開けとなりましたが、次のシリーズでK#1金親のFGで同点に。DB#27松下のインターセプト、DL#92紀平のFGブロックなどディフェンス陣が大奮闘。K#1金親のFGで3点を追加し6-3とリードして前半を終了します。後半は主将LB#2古庄のインターセプト、DL#11ケヴィン・ジャクソンのFGブロックなど、ディ

フェンス陣が再三チャンスを作りますが、試合は動かず。なんとしても得点の欲しいオフェンスはQB#15龍村がスナップされたボールをまたもやファンブルし、富士通にエンドゾーンでリカバー TDされ6-17とリードを広げられてしまいます。しかし、この後のオフェンスでQB#15龍村がWR#13高橋に2本のTDパスを決め20-17と逆転に成功。最後は富士通オフェンスにゴール前まで攻め込まれますが、同点のFGは失敗。20-17で勝利し、パールボウル決勝進出を決めました。

ゲーム MVP (コーチ選出)

**Offense MVP****WR #13 高橋睦巳**

4 キャッチで 57 ヤード獲得、2TD。特に決勝点となった残り 57 秒での逆転 TD は値千金。

**Offense MVP****RB #36 白木周作**

18 回のキャリアで 101 ヤードを獲得。一回のタックルで倒れない素晴らしい粘りを見せた。

**Defense MVP****LB #2 古庄直樹**

12 タックルでタックルリーダー。自陣での狙いすましたインターセプトの貢献度が光った。

**Kicking MVP****DL #92 紀平充則**

再三激しいプレッシャーを与え続け、的確な反応でフィールドゴールを弾き返した。



DB#27 松下のインターセプト



2本のTDパスを決めたQB#15龍村



FGをブロックするDL#92紀平

秋シーズンに向けて

6月19日(金)に行われたパールボウルでは、熱烈なる応援をいただき、誠にありがとうございました。あらためまして、深く御礼を申し上げます。

2009年シーズンは、チーム強化の仕組みそのものを強化すべく、春から取り組んでまいりました。残念ながら、鹿島ディアーズに対しては、一步及ばず優勝することができませんでしたが、ここまでの成果、進捗を見定め、秋シーズン、ライスボウル優勝＝日本一に向け、さらに進んでまいりたいと思っております。今後とも、より一層のご支援、応援をお願い申し上げます。



GM兼監督
並河 研

戦略面での収穫と課題

① 今期より新しくなった攻守コーディネーション

オービックスシーガルズは、今年、攻守ともに新しいコーディネーターを迎え、今までとは違った戦い方で試合に臨んでいます。そのような中、準決勝の富士通戦、決勝の鹿島戦と、強豪チームとの接戦を経験できたことは大きな収穫と言えますが、競り合いの試合を必ずものにするといった「勝ち方の研究」が、まだまだ不足していることは否めません。今年から開始される「セカンドステージ」をどう勝ち残り、どう勝ち切っていくのか？さらに徹底的に突き詰めていく必要があります。

② ポジションごとの強化状況

コーチ間でのコミュニケーションを質・量ともに高めた結果、各ポジションの課題等において、例年になく、深い共通認識を持つことができました。ほぼ全てのポジションにおいて、はっきりした進歩の跡が見られたのが大きな収穫ですが、スタータークラスの選手層は、まだまだ薄く、さらなる成長が不可欠だと認識しています。



③ チームワーク(土台づくり)

古庄主将を中心に、新たに副将に就任したKJ、松本の両選手がチームをまとめあげる役割を果たしています。大量13名の選手が引退し、それに伴って新加入選手が増えた今年、春の時点でこれを実現できているのは、チームの土台を創る上で、非常に大きな成果と言えます。秋に向けては、より有機体として機能するようなコミュニケーション環境を構築していきたいと思えます。

④ トレーニング

近年取り組んでいる「体幹&体軸」の成果が徐々に表れており、春を終わった時点で、回復に長期を要する大きな怪我人が、明らかに減りました。一方で、1Qあたり15分で戦う試合を勝ち切るためのフィジカル面の強化には、引き続き取り組んでいきます。

日本代表二次候補84名に オービックスシーガルズから13名選出

7月25日(土)に東京ドームで開催される「ノートルダム・ジャパン・ボウル2009」に出場する日本代表選手の二次選考結果が、日本アメリカンフットボール協会より発表されました。

最終選考に進む候補選手は、一次選考(5月)の150名から84名に絞られ、オービックスシーガルズからは、下記の13名の選手が選出されました。

この後、強化練習、強化試合※を経て、7月14日(火)に「日本代表選手」60名が発表される予定です。

※7/12(日)13:30～@川崎球場
vsオール日本大学フェニックス

最終選考に進む日本代表候補選手13名



上段左より RB:古谷拓也 WR:清水 謙
OL:宮本 士、河村真之助、工藤弘幸
DL:紀平充則、畠山大輝 LB:古庄直樹、
中井勇介 DB:渡辺雄一、藤本将司(新加入)、堀 龍太(新加入:旧オンワード)
K/P:金親洋介

ノートルダム・ジャパン・ボウル2009

ノートルダム・ファイティング・アイリッシュ・レジェンズ
vs. 日本代表
2009年7月25日(土) 16:00キックオフ
会場/東京ドーム
公式サイト:<http://www.americanfootball.jp/ndjb/>

メインスポンサー

システムインテグレータの **オービックス**

オフィシャルスポンサー



オービックスシーガルズマンスリーレポート 6月号

発行人/並河 研
編集/渡部滋之
制作・デザイン/高木慶太
文/藤田義生、渡部滋之
発行/株式会社OFC
〒275-0024 千葉県習志野市茜浜3-6-3
tel: 047-452-2224
<http://www.seagulls.jp>